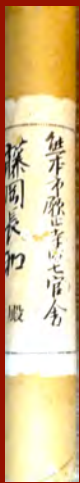




平成28年10月1日(土) ~ 12月22日(木)



「現代五十名家書画集」昭和4年2月5日付新聞附録より



「新聞絵附録」展

登録有形文化財「藤岡家住宅」・NPO法人うちのの館
〒637-0016 奈良県五條市近内町526 電話とFAX 0747 (22) 4013

「新聞絵附録」展

平成28年10月1日(土)～12月22日(木)(予定)・於藤岡家展示室
藤岡家所蔵の明治～昭和初期の新聞得附録などを展示します

新聞絵附録について

今回展示する「新聞絵附録」は、明治～昭和初期に新聞の附録として藤岡家に送られてきたものです。新聞の絵附録は、明治26年から日本で初めての多色石版刷になり大正7年に姿を消しました。藤岡家には多色赤飯刷りの絵画(印刷)13点、写真7点、大正天皇の宸筆、乃木希転の書、三条実美の父・三条実万公の書など「書」(印刷)3点が残されています。絵画は、明治天皇、昭憲皇太后、大正天皇、貞明皇后、大正天皇の4皇子など主に皇室の人々の肖像画で、作者は和田英作と山内愚遷です。ヨーロッパで発達した肖像画の技法に影響を受けながらも「日本らしさ」を意識した油彩で、明治から大正へ、急速に近代化していく時代の日本を象徴する資料と言えます。昭和4年2月5日付の新聞附録「現代五十名家書画集」(全3集の内第1集・第2集)は、当時の一流の文化人による直筆の代表作品を20㍻×20㍻に縮小して印刷し、洋画の石井柏亭、鹿子木孟郎、小杉末醒、岡田三郎助、梅原龍三郎、南薫三。日本画の西山翠嶂、堂本印象、富田溪仙、川合玉堂、川端龍子、竹内栖鳳、上村松園、山元春挙、橋本関雪、川村曼舟、鎚木清方、横山大観、土田麦僊、福田平八郎、菅橋彦。浮世絵も描いた北野恒富。俳人では松瀬青々、高浜虚子、河東碧梧桐、荻原井泉水、村上鬼城。歌人では与謝野晶子、斎藤茂吉、北原白秋らの作品が美しいカラー印刷でまとめられています。これら新聞の絵附録は新聞とは別に、紙筒に収めて郵送されてきていました。泊亭、印象、溪仙、栖鳳、橋彦、恒富、虚子、碧梧桐、鬼城、晶子らは藤岡家に実作品を残しているため、新聞附録と共に展示します。また、昭和12年4月、朝日新聞社は東京-ロンドン間の飛行を計画して世界記録を樹立しましたが、その記録を冊子にして新聞附録としたものもあります。藤岡長和はその飛行に資金面の協力をし、新聞社から感謝状が届いています。藤岡長和と親交の深かった新聞記者たちが当家で描いた作品も永井瓢齋(明治14年～昭和20年)は朝日新聞の「天声人語」を10年間執筆しています。瓢齋は俳句に優れ、晩年は、向井去来の「落柿舎」に住居して俳句を詠んでようです。藤岡長和と南方熊楠を結びつけた毛利柴庵(明治5年～昭和13年)は和歌山県議であり、牟婁新報の社長でした。毛利も藤岡長和に大きな影響を与えた新聞人で、書簡類が残されています。「新聞」は情報を報道するためのメディアであるというのが現代の一般的な認識ですが、高級感ある附録を見ますと、情報の発信以外に時代の文化を牽引する一つの「文化力」をもっていた新聞の一側面に触れることができます。インターネットなどの普及によって情報メディアが「紙」を離れようとしている現代、改めて、印刷された「紙」の新聞の「情報発信」以外の部分を見て頂ければと思います。

学芸員・館長 川村優理



「朝日」和田英作画
大正5年1月1日附録

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理人

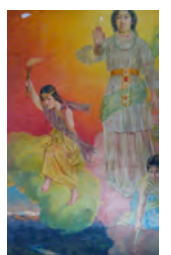
NPO法人うちの館(やかた)

〒637-0016 奈良県五條市近内町526 電話&fax 0747(22)4013

info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>

午前9時～午後4時 月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館

大人(高校生以上)300円・小中学生200円・20名様以上2割引



「朝日」和田英作画
大正5年11月1日附録